

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700444		
法人名	特定非営利活動法人いちいがしの里		
事業所名	グループホームオリーブ	ユニット名	2ユニット
所在地	宮崎県都城市山之口町花木2152-3		
自己評価作成日	令和5年2月6日	評価結果市町村受理日	令和5年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topijigvosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和5年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルスの蔓延により、徐々に運営推進会議やボランティアなど、外部との関わりを持つ機会がなくなりました。入所者様に少しでも日常生活を豊かに過ごせるように職員間で話し合い、食の楽しみを特に工夫しようと取り組み、餃子パーティー・たこ焼きパーティー・ガネパーティー・バイキング・すき焼き等、各テーブルに鍋又はフライパン等を準備し、目の前で調理(利用者様も可能な限りお手伝い)、ご自分で取って頂き食べて頂きました。目で楽しみ、食べて楽しむ事ができ、普段小食の利用者様からも大好評でありました。今後もコロナウイルスとは関係なく、引き続き取り入れていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎朝、朝礼の時に「職場の教養」(書籍)を利用して職員全員で仕事に取り組む気持ちや思い、姿勢を振り返り理念の下、日々ケアに取り組まれている。コロナ禍で色々な制限がある中、少しでも馴染みの関係が途切れないよう支援を行っている。職員の勉強会ではグループワークを導入し少人数での意見の出しやすさを工夫するなど意見の収集にも努めている。又食の楽しみに取り組んでおり、日当りの良いバルコニーでたこ焼き、餃子、ガネパーティーなど目で楽しみ、食べて楽しむことができる食事を提供し、普段小食の利用者からも喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や基本方針を事業所内に掲示し、毎日の朝礼で唱和し、常に意識できるようにしている。		朝礼で理念を唱和したり、毎日「職場の教養」(書籍)を基に仕事に取り組む気持ちや思い・姿勢などのテーマについて参加者で感想を発表し全員で共有するなど理念に基づいたケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ蔓延防止の観点から、やむを得ず外部との繋がりを一時中断せざるを得なかった。		コロナ禍で地域との交流は制限されているが地域の方からの果物や野菜、米などの差し入れがある。コロナ禍以前は地域のイベントやボランティア活動の受け入れなど積極的に交流を図っていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ蔓延防止の観点から、やむを得ず外部との繋がりを一時中断せざるを得なかった。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ蔓延防止等により、運営推進会議の開催はできていない。文書の配布により事業所の取り組みなどは報告している。		コロナ禍でホームの状況や活動報告は書面の送付で行っている。どうしても書面では意見が出づらく今月から対面での開催を予定しており、対面での意見聴取に取り組む予定である。以前は対面での開催ではよく意見が出ており、サービス向上に活かした例もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の報告書・事故報告等提出の際、現状報告を含め説明している。		支所の担当者が会議へ参加していたが現在は書面を持参し報告を行っている。ここ数年は感染症対策などで、綿密に連携が図れて対策ができ、それ以外の事も気軽に相談できる関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時に、身体拘束適正化の説明を実施している。また、すべての職員には、定期的な勉強会にて		身体拘束に関する勉強会を毎月実施し職員全員が身体拘束の具体的な内容や、その弊害について理解ができています。勉強会に参加できない職員へは議事録を配布して共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の勉強会の際に、高齢者虐待についても学ぶ機会を持ち職員同士が虐待を廃止する意識を共有し、声掛けや対応についても虐待に当たるものかどうかの見直しの機会を日々持っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を使われている方は現在いないものの、その制度や内容を理解しておく事は必要な事である為、研修等で取り入れ理解を深めたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設見学や費用等の説明を行い、事業所の役割や設備等の説明を行っている。また、契約時にも再度、書面を利用して説明を行い、契約を交わし同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ蔓延防止の観点から、ご家族の面会も制限されている為、電話・短時間での面会時に、普段の様子を伝えたり、意見・要望等を聞いている。	面会の制限もあり対面での意見の聞き取りは減少したが、短時間での面会時や電話など利用して意見や要望の把握に努めている。実際、家族からの要望で受診時の利用者の容姿の整えや服装の改善につながった例もある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な勉強会を実施し、職員からの意見等を受け入れ、実現に向けた話し合いを持ち、職員間で共有して実行できるよう努めている。	毎月の勉強会ではグループワーク(少人数)も実施し、職員からの意見が出やすいよう工夫している。実際に職員の意見で利用者のケアに関するテーマから業務スケジュールの変更につながり業務改善となるなど運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算等を取得し、資格取得や継続勤務への意欲につなげている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナまん延防止の観点から、OJT制度を利用し勉強会を開催したり、外部研修としてはズームでの参加で進めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍蔓延防止の観点から、やむを得ず外部との繋がりを一時中断せざるを得なかった。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人様の入居に対しての不安や家族様との情報交換を慎重に行いそれまでの生活を踏まえたケアプランを作成する事により入居への安心を確保する関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面接時、契約時等にご家族の希望や不安や思いを聞き、ご家族の気持ちも尊重し、電話連絡等、常に相互に話し合える環境づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の生活習慣などではできる限り継続できる形をとり、それを組み込んだホームでの生活を支援します。必要があれば他のサービス利用も柔軟に対応できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の個性や生活歴を尊重し、残存機能を維持できるよう自分で出来ることはご本人にさせていただき、出来ないことはサポート、寄り添い家族のような暮らしを共にする信頼関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍蔓延防止の観点から、やむを得ず面会・外出等制限は実施しているが、電話・ガラス越しの面会及び医療機関への受診付き添い等で絆を保てるよう努力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通われていた主治医の通院の継続や、往診依頼も可能な限り実施している。入所以前に地域での交流を持っていた方の面会等はガラス越しで実施し、なるべく関係が途切れないよう努めている。		かかりつけ医の継続や知人や友人、家族とのガラス越しでの面会も出来る限り継続して実施している。家族の支援で行きつけの店での買い物や馴染みの理容室に行かれる利用者もいる。ドライブで馴染みの場所を訪ねたり、関係が途切れないよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、職員が間に入り援助することで、良い関係を築き、孤立することがないように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても、同じ地域で行事・買い物等で顔を合わせることもあり、これまでの事や現在の関係者のご様子などお聞きし関係性を継続している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の今までの生活歴等、ご家族から情報収集し、思いや意向の把握に努めている。入居後も言葉や行動の裏に隠れている意向を想像しながら勉強会でも話し合っている。	本人や家族からの聞き取りや困難な場合は利用者のその日その日の表情や言動に留意して思いや意向の把握に努めている。利用者の状態は申し送りで職員全員が情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に必ず面談を行い、生活歴や習慣・趣味などを含めた情報収集し、職員間で共有しホームでの過ごし方に反映させている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や排泄状況、水分摂取等細部まで記録に残し、ご本人の身体面・精神面の気づきも個人記録や業務日誌に細かく記録している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員が毎月モニタリング実施。プランの更新月は利用者担当及び管理者・ケアマネがプランの再検討を行う。家族に次回のプランの意向を確認した上で再検討を基にカンファレンス実施。現状に即した介護計画ができるよう努めている。	モニタリングを毎月実施し定期的に計画の見直しを行っている。計画作成時には本人の意見や状態把握、家族からの意見を聞き取り計画に反映するよう努めている。担当者会議で計画は作成するがコロナ禍で家族へは文書を交付し説明している。状態の変化時は随時に計画の変更を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を個人の記録に記入し、職員間で情報共有し、様々な記録を活用しカンファレンスを行い実践や介護計画の見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に合わせて受診対応や入退院の支援、外出時の援助などを行っている。その他ご本人やご家族の要望に対しても柔軟な対応を心がけている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア活動などは、コロナ蔓延防止の観点から、やむを得ず外部との繋がりを一時中断せざるを得なかった。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(協力医)が、毎月1回の往診があり、身体的状況を報告している。また、専門医受診の場合、ご家族・職員が付き添い対応している。	入居前からのかかりつけ医を利用している方もいて家族や職員が付き添って受診している。協力医の往診は月1であり、日頃から職員も受診して関係構築ができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師が体調面の管理を行っている。パルンの管理も行っており、必要であれば主治医と連携を図っている。夜間はオンコール、24時間体制で対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・看護師・ケアマネを中心に病院関係者と情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化及び終末期の説明をし、意思確認をしている。また、重度化・終末期になる可能性の時は、再度説明し方向性を確認する。看取りも行うため、主治医・ご家族・職員が方針を共有し、チームで支援する。	今まで10件ほど看取りを行っている。主治医を中心に訪問看護や職員などが情報共有を図り、本人や家族に意思確認を行い、安心できる支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員が常に確認できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合火災訓練を実施している。また、災害時に地域の方にも協力いただけるよう運営推進会議の際、アナウンスしている。	毎回、昼間や夜間を想定した訓練をしている。備蓄も5日分を確保し、緊急システムで自動的に連絡がいくようになっている。又、運営推進会議等を利用して協力体制の構築に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が生活歴等の情報を共有し、把握に努めている。排泄や入浴等の場面ではドアの開閉を極力最小限に努め、プライバシーの確保に努めている。また、申し送りの際、氏名はイニシャルで報告している。	職員全員で生活歴等の情報を共有し、1日4回の申し送りの際は実名ではなく、必ずイニシャルで報告している。利用者の人格を損ねないケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が発した言葉の裏にまで思いを巡らせ、ご本人の意向を引き出す努力をしている。ご本煮の(らしさ)に溢れた暮らしを支えられるよう信頼関係の構築に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る所や、やっている事、わかる事の楽しみに着目し、実際の行動をイメージして、対話を通じて支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選定や、季節に合った衣類をご家族に持参して頂き、その人らしい身だしなみができるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食・夕食とも、クラシック・ジャズ等を流し、ゆったりとした雰囲気をつくり、食べて頂いている。また、食後は、残存能力を活かし、下膳等が可能な利用者様は、下膳して頂く。且つ、テーブル拭き迄お手伝いされている。	食の楽しみに取り組み、バルコニーで餃子、たこ焼き、ガネパーティーやバイキング、すき焼き等、目の前で料理し、利用者も可能な限り手伝い、楽しみになるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・副食共に、摂取状態に合わせた食事形態で提供している。食事・水分量は記録し、状況に応じて医療に繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様は全員口腔ケアを行っている。必要に応じて介助している。利用者様によっては、定期的な歯科受診に行かれています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握、確認し自立に向け定期的に利用者様の様子を見て声掛けし誘導、支援している。その事で失禁を減らし、リハビリパンツ等の使用を減らせるように努めている。	排泄チェック表を利用し、声掛け、時間誘導を行っている。日中のトイレ誘導で失禁の減った利用者もいて、自立に向けた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録で確認し、便秘時には下剤の調整や水分補給の促し、適度な運動、体操等を取り入れ、便秘の解消に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回実施しており、利用者様の状態に合わせて入浴時間の調整を行っている。	週3回の入浴日となっている。気の合う利用者は浴槽と一緒に浸かり、会話を楽しんでいる。入浴拒否の場合は声掛けや時間を調整するなど個々の入浴支援が行われている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度、湿度管理を行い、安眠できる環境を整えている。他にも照明や家具等の位置なども、利用者様の希望や安全に配慮して設置している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現疾患に関する薬は、ご本人の状態により、調整などが必要で、常に主治医との連携が必要なため、職員全員が目的・用法などを理解している。また、服薬忘れ・誤配がないように注意している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る事出来ない事を見極めたうえで、役割や楽しみを提供できるよう支援している。			

宮崎県都城市 グループホーム「オリーブ」(2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	2ユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍蔓延防止の観点から、外出支援が殆どできていない。現状は専門医の受診、葬儀、法事等程度ある。		コロナ禍で外出ができなかったが病院受診や葬儀などの送り迎えをしたり、日当たりの良いバルコニーでの食事やおやつ、日光浴をして外出気分を味わえるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いを預かり、管理をしているが、一部の利用者様は他に現金をご自分で管理されている。ご本人が希望されれば、職員が代わりに買い物に行っている。(コロナ禍の為)			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次ぎ直接ご本人と話をしたり、必要に応じては電話をかけたりしている。利用者様とご家族との繋がりを大切に、安心して頂ける様にしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングで生活する時間が最も長い為、自然光を取り入れ、見通しの良い空間であり、庭も眺められ、四季の木々があり、季節を感じられる環境である。		日当たりの良いリビングにはソファ一席を設け、朝9時過ぎにはそこで甘いコーヒーを飲むのを楽しみにしている。季節ごとの共同制作の作品も飾り、居心地よく過ごせるよう工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は、周りの方との関係性にも配慮し、ソファ席も同様、座席の工夫を行い、馴染みの関係が保てるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やリネン類の持ち込み、写真や飾りなどの持参をお願いしている。必要に応じて動線や身体の状態にも配慮した配置にするようにしている。		居室には写真や馴染みの家具などを持ち込み、動線を考えた配置にしている。又、職員は本人や家族と話し合い利用者が安心して過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に表札をかけ、自ら迷わずに居室に行ける工夫をしている。普段出来る事、出来ないことを見極め、職員が支援する事で、自立した生活ができるよう工夫している。			